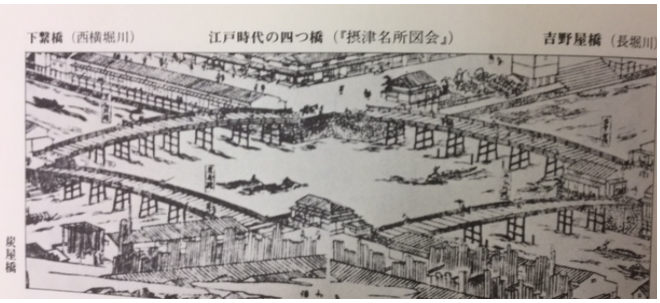
大阪「四つ橋」

前から「四つ橋」に興味があり、心斎橋から歩いてみた。案内板によると「四つ橋は大阪人にとってなつかしい橋である　ここより東の阪神高速道路下と長堀通りが交差する所を囲むように方形に架かっていた　西長堀川　長堀川の埋立によって橋としての歴史を終え　地名として名を残すのみとなったが　橋を愛する人々の心に生き続けている　この四つ橋を偲ぶよすがとして整備を行った照明柱を中心に四つの橋を配置し　江戸時代の木橋を表現するため　橋の欄干と床面は木製とし　川面は砂利を埋めた床で　旧橋の親柱に埋込まれていた橋名板を照明柱の台座に残すとともに橋長は約 10 分の 1　幅員は約６分の１として　正面には顕彰碑を配置している　また　ここより東に向い阪神高速道路を隔てた横堀筋沿いに二つの句碑を並べて配置している

　　涼しさに　　四つ橋を四つ　　わたりけり　　来山
　　後の月　　入りて貌よし　　星の空　　鬼貫目

これらの句碑は　変わりゆく時代の中　四つ橋を静かに見守っている」

『水の都、橋の都 モダニズム東京・大阪の橋梁写真集』 から。昭和 2〜3 年の「四ツ橋一望 西横堀川と長堀川との交差部にかかる四つの橋。「四ツ橋」は、上繋橋・炭屋橋・下繋橋・吉野屋橋の総称である」と書かれている。その下の写真は江戸時代の四つ橋。松村博『大阪の橋』による。四つ橋は井原西鶴の『好色一代ゆ男』の一節に登場する。世之助が遊山舟を四つ橋につけ、陸に上ってその足で新町へ向かうことになっている。四つ橋のたもとは舟着場となっており、ここは淡路島に通う洲本舟などの発着場でもあった。橋の下は多くの舟が行き交い、橋の上の往来もはげしかったが、橋からながめられる周辺の風景は非常にすぐれ、都市の中の貴重な散策の場となっていた。納涼や観月の名所ともなっており、俳句や漢詩に多く取り上げられている。



江戸時代から大阪の名所の一つとして市民に親しまれた四つ橋も昭和 46 年には西横堀川が、昭和 48 年に長堀川が完全に埋め立てられ、姿を消してしまった。今では長堀通の中央の緑地が阪神高速道路と立体交錯している部分に、小西来山と上島鬼貫の句碑が移設されており、それによってわずかに四つ橋の過去を知ることができるだけである。

（2016 年 2 月 23 日）